

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	山陽学園大学
設置者名	学校法人山陽学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
総合人間学部	言語文化学科	夜・通信	0	22	12	34	13	
	生活心理学科	夜・通信			16	38	13	
地域マネジメント学部	地域マネジメント学科	夜・通信		0	16	16	13	
看護学部	看護学科	夜・通信		0	67	67	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.sguc.ac.jp/uploads/page/unit/files/649744e7d7bf82859cd686445262c4cf4.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	山陽学園大学
設置者名	学校法人山陽学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://sanyogakuen.net/organization/chart>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	研究・研修センター所長	2019年5月 31日～2023 年5月30日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	民間企業代表取締役社 長	2019年5月 31日～2023 年5月30日	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	山陽学園大学
設置者名	学校法人山陽学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年前年度の11月にシラバスの作成要領を作成し、すべての専任教員、非常勤講師に配布している。</p> <p>作成要領に従い、授業概要のほか、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等の各事項を記載したシラバスを作成している。</p> <p>シラバスは各学部において記載内容の確認を行っている。</p> <p>作成したシラバスは、年度当初のオリエンテーションにて学生へ冊子として配布し、ホームページにも公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	http://www.sguc.ac.jp/student/syllabus
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>シラバスの「成績評価の方法・基準」の項目に、当該授業における試験や課題等評価にあたっての方法・手段並びに基準を記載し、あらかじめ学生に周知した上で、その学生に周知した内容に則って単位の認定ならびに評価を行っている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

客観的な指標として、GPA制度を導入している。

成績評価5段階のうち、合格評価であるS・A・B・Cの4段階はそれぞれ4・3・2・1の点数に、不合格評価は0点に置き換え、定められた算出方法に基づき算出している。

算出したGPAは、成績状況の把握や履修条件、奨学生選定の指標等に適切に実施・利用している。

学生に対しては、年度当初のオリエンテーションにて制度・算出方法を掲載した履修ガイドを配布し、周知を行っている。

< GPAの算出方法 >

成績評価を、次のように点数(GP)に置き換える。

	評点段階	成績評価	GP
合格	100~90点	S	4
	89~80点	A	3
	79~70点	B	2
	69~60点	C	1
不合格	59点以下	D	0
	受験資格なし	F	
	試験欠席	G	

計算式は次のとおり。

$$\text{GPA値} = \frac{(\text{授業科目の単位数} \times \text{授業科目のGP})\text{の合計}}{\text{授業科目の単位数の合計}}$$

計算値は、小数第3位を四捨五入し、小数第2位まで表示。

なお、自由科目および単位認定科目は、計算から除外する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<http://www.sguc.ac.jp/student/syllabus>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

各学科ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)を策定し、公表している。

各学科、方針に基づき修得単位数等の卒業要件の基準を設定しており、その認定については、各学部教授会において適切に実施している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	山陽学園大学
設置者名	学校法人山陽学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.sanyogakuen.net/disclosure/college/finance_disclosure
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.sanyogakuen.net/disclosure/college/public_disclosure

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 総合人間学部言語文化学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：http://www.sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure)</p> <p>(概要) 総合人間学部は、国際化、情報化、多様化した現代社会の中で、自己を確立して人間らしく生き、より良好な社会や人間関係を構築するための理念や方途を教育研究し、それによって次世代を担う人材の社会貢献に資することを目的としています。</p> <p>言語文化学科は、英語、日本語および東アジアの言語を実践的に学ぶとともに、言語の背景にある社会的、文化的な特質を教育研究し、多文化共生の理念に基づき、地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。</p> <p>この目的を実現する過程で、英語、日本語の専門的教育内容を学生の卒業後の職業選択に生かすために、英語(中学・高校)および国語(中学・高校)に関する教職課程を設置するほか、学校図書館司書教諭課程、学芸員課程、司書課程、日本語教員養成プログラムを設置しています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy)</p> <p>(概要) アドミッションポリシーを十分に理解して入学し、カリキュラムポリシーに沿って設定された授業科目を学び、学則に定める所定の単位を修得した学生には、卒業を認定し、「学士(人文学)」の学位を授与します。学位を授与される学生は、次の学修成果が認められることとなります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 全学共通の必修である「山陽スタンダード科目」と各学科の実践科目の修得を通して、「愛と奉仕」の理念を学ぶとともに、国際社会や地域社会で積極的に貢献できるような実践力を身につけたと認められること。 2. 専門分野の知識や技能だけでなく、社会人としてより良い人間関係を構築するための基礎的な教養や優れたコミュニケーション能力を身につけ、幅広い視野と多面的な思考力により、客観的な認識力や判断力を養ったと認められること。 3. 「基礎演習Ⅰ、Ⅱ」「文章表現法Ⅰ、Ⅱ」「口頭表現法」「特別演習」「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」の履修を通して、課題を発見し、探求するための思考力や判断力を身につけ、その成果を文章や口頭で伝える表現力を養ったと認められること。 4. 「コミュニケーション概論Ⅰ、Ⅱ」「異文化理解演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の履修を通して、コミュニケーションの基礎や、異なる文化を受容するための多様な価値観を学び、多文化共生社会において、多様な人々と協働し、主体的に問題を解決する態度を身につけたと認められること。 5. 選択した科目の履修により、各言語の運用能力を身につけ、その言語の背景となる地域の社会、歴史、文化の成り立ちが理解できていること。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy)</p> <p>(概要) 言語文化学科は、建学の理念である「愛と奉仕」の精神を基盤とし、言語理解だけでなく、異文化理解の深化を通じて、真の人間理解や、国際理解に基づいた共生社会の構築に貢献できる人材を養成することを目標としてカリキュラムを編成しています。</p> <p>専門教育必修科目では、4年間を通して、思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力、異文化理解力を培います。この共通基盤の上に、「日本・アジア科目群」「英語科目群」「実習系・留学系科目群」の履修によって専門性を高め、国際化社会で必要とされる言語能力とコミュニケーション能力を備えた教養人の育成を目指します。</p>

1. 1年次には、山陽スタンダード科目「知的生き方概論」「人間学」を履修します。それと平行して、人文科学、社会科学、自然科学、外国語、情報科目、スポーツなどの幅広い分野で構成された「共通教育科目」によって広い視野を培います。
2. 1年次には、少人数の演習形式による「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」を初年次教育として履修します。これら2科目で大学生に必要な学習方法・研究方法の基礎と共生社会構築に必要な考え方や行動の仕方の基礎を学びます。
3. 「基礎演習Ⅰ、Ⅱ」「文章表現法Ⅰ、Ⅱ」「口頭表現法」「特別演習」「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」の履修を通して、課題を発見し、探求するための思考力や判断力を身につけ、その成果を文章や口頭で伝える表現力を育てます。
4. 「コミュニケーション概論Ⅰ、Ⅱ」「異文化理解演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の履修により、コミュニケーションの基礎や、異なる文化を受容するための多様な価値観を学び、多文化共生社会において、多様な人々と協働し、主体的に問題を解決する態度を育てます。
5. 「日本・アジア科目群」「英語科目群」「実習系・留学系科目群」の履修により、専門分野を体系的に学ぶことができます。日本語、中国語、ハングル、英語の運用能力を習得し、その言語の背景となる地域の社会、歴史、文化の成り立ちを理解します。
6. 地域や国内、ひいては国際社会での貢献など、目指す分野や卒業後の希望進路に応じて科目を履修し、必要な単位を修得します。
7. 「社会人入門」「ビジネス実務論」「企業協働型ラーニング」「NLP ビジネス心理実践学」「経営学・キャリア学基礎」「一般教養論」「インターンシップ」などの就職支援科目を充実させ、社会人になるために必要なキャリア教育を進めます。
8. 学習の評価は、シラバスに記載されている【成績評価の方法・基準】（筆記試験、論文、実技、出席状況等）に基づいて科目担当教員が行います。成績の評価は、100点を満点、60点以上を合格として単位を認定します。
9. 第1・2年次においては、52単位以上を修得し、かつ累積GPA値1.00以上又は前年度GPA値1.00以上でなければ、第3年次配当の授業科目を履修することはできません。ただし、修得単位数に自由科目の単位は含めません。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy)

(概要) 言語文化学科では、次のような人を積極的に受け入れたいと考えています。

1. 日本を含めたアジアや英語圏の言語・文化・歴史・社会に関心を持ち、国際的視野で物事を考え、判断し、表現する力を身につけたい人
2. 異文化間の交流やその影響などに関心があり、様々な人々との交流や協働を通じて主体的に学び、文化への理解を深めたい人
3. 日本やアジアの言語と文化に関して、専門的な知識や技能を身に付け、それぞれの国や地域について発信したい人
4. 英語と英語圏の文化に関する専門的な知識と技能を身に付け、国際的なコミュニケーションに役立つ英語運用能力を習得したい人
5. 英語・国語の教員、学校図書館司書教諭、学芸員、司書、日本語教員等の資格を取得し、それを生かして活躍したい人

学部等名 総合人間学部生活心理学科

教育研究上の目的

(公表方法：http://www.sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure)

(概要) 総合人間学部は、国際化、情報化、多様化した現代社会の中で、自己を確立して人間らしく生き、より良好な社会や人間関係を構築するための理念や方途を教育研究し、それによって次世代を担う人材の社会貢献に資することを目的としています。

生活心理学科は、現代に生きる人間と人間を取り巻く環境を教育研究することにより、自ら、こころ豊かな生活を創造し実践することができ、社会に貢献できる人材の育成を目的とします。

この目的を実現する過程で、学生の卒業後の職業選択に生かすために公民（高校）に関する教職課程を設置するほか、認定心理士や認定心理士（心理調査）、社会調査士、保育士を目指す教育課程も設置しています。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy)

(概要) アドミッションポリシーを十分に理解して入学し、カリキュラムポリシーに沿って設定された授業科目を学び、学則に定める所定の単位を修得した学生には、卒業を認定し「学士（生活心理学）」の学位を授与します。学位を授与される学生は、次の学修成果が認められることとなります。

1. 全学共通の必修である「山陽スタンダード科目」と各学科の実践科目の修得を通して、「愛と奉仕」の理念を学ぶとともに、国際社会や地域社会で積極的に貢献できるような実践力を身につけたと認められること。
2. 専門分野の知識や技能だけでなく、社会人としてより良い人間関係を構築するための基礎的な教養や優れたコミュニケーション能力を身につけ、幅広い視野と多面的な思考力により、客観的な認識力や判断力を養ったと認められること。
3. 「生活心理学概論」「心理学概論」「基礎演習A、B」「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」「卒業論文Ⅰ、Ⅱ」の履修を通して、社会生活をおくる中でこころが関与する課題を発見し、探求するための思考力や判断力を身につけ、その成果を文章や口頭で伝える表現力を養ったと認められること。
4. 「心理社会科目群」の履修により、社会生活をおくる人の心理や行動を科学的に分析し、諸問題を解決する方策を提案し、実践する能力、「子ども支援科目群」の履修により、子どもの身体や心理、行動の特性を知り、子どもの健全な発達を支援する技能を身につけ、実践する能力の両方、または、いずれかを養ったと認められること。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy)

(概要) 生活心理学科は、建学の理念である「愛と奉仕」の精神を基盤とし、人のこころと行動を探求する心理学を、人が生活をおくる社会システムや生活環境に関する科目とともに学修し、人間および社会生活を深く理解し、共生社会の構築に貢献できる人材を育成することを目標としてカリキュラムを編成しています。

専門教育科目の「生活心理学科目群」の必修科目では、社会生活をおくる中でこころが関与する課題を発見し、探求するための思考力や判断力を身につけ、その成果を文章や口頭で伝える表現力を培います。この共通基盤の上に、「心理社会科目群」「子ども支援科目群」の履修によって専門性を高め、社会生活における諸問題を、心理学、社会システム、生活環境の観点から、より良い社会生活を提案できる能力を備えた教養人の育成を目指します。

1. 1年次には、山陽スタンダード科目「知的生き方概論」「人間学」を履修します。それと並行して、人文科学、社会科学、自然科学、外国語、情報科目、スポーツなどの幅広い分野で構成された「共通教育科目」によって広い視野を培います。
2. 1年次には、少人数の演習形式による「基礎演習A」「基礎演習B」を初年次教育として履修します。これら2科目で、大学生に必要な学習方法・研究方法の基礎と共生社会構築に必要な考え方や行動の仕方の基礎を学びます。

<p>3. 「生活心理学概論」「心理学概論」「基礎演習A、B」「卒業研究Ⅰ、Ⅱ」「卒業論文Ⅰ、Ⅱ」の履修を通して、社会生活をおくる中でこころが関与する課題を発見し、探求するための思考力や判断力を身につけ、その成果を文章や口頭で伝える表現力を育てます。</p> <p>4. 「心理社会科目群」の履修により、社会生活をおくる人の心理や行動を科学的に分析し、諸問題を解決する方策を提案し、実践する能力、「子ども支援科目群」の履修により、子どもの身体や心理、行動の特性を知り、子どもの健全な発達を支援する技能を身につけ、実践する能力を育てます。</p> <p>5. 卒業後の進路希望に応じて、「生活心理学科科目群」「心理社会科目群」「子ども支援科目群」から科目を履修し、必要な単位を修得します。</p> <p>6. 「社会人入門」「ビジネス実務論」「企業協働型ラーニング」「NLP ビジネス心理実践学」「経営学・キャリア学基礎」「一般教養論」「インターンシップ」などの就職支援科目を充実させ、社会人になるために必要なキャリア教育を進めます。</p> <p>7. 学習の評価は、シラバスに記載されている【成績評価の方法・基準】（筆記試験、論文、実技、出席状況等）に基づいて科目担当教員が行います。成績の評価は、100点を満点、60点以上を合格として単位を認定します。</p> <p>8. 第1・2年次においては、52単位以上を修得し、かつ累積GPA値1.00以上又は前年度GPA値1.00以上でなければ、第3年次配当の授業科目を履修することはできません。ただし、修得単位数に自由科目の単位は含めません。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 （公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy）</p>
<p>（概要）生活心理学科は、次のような人を積極的に受け入れたいと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活学と心理学の知識と方法論を学び、社会で活躍したい人 2. 心理学と社会調査に関する専門的な知識と方法論を学び、科学的な分析力を身に付けて、社会で活躍したい人 3. 心理学と子どもに関する専門的な知識と方法論を学び、子どもの支援に役立つ能力を身に付けて、社会で活躍したい人 4. 学んだ知識と技術を用いて、主体的に多様な人々と協働してこころ豊かな生活を実現したい人

<p>学部等名 地域マネジメント学部地域マネジメント学科</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：http://www.sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure）</p>
<p>（概要）地域を担う産業とそれに関わる人材育成を、大学として教育の場で具体化するために、地域産業として、第1次産業（アグリ産業）、第2次産業（ものづくり産業）、第3次産業（商い産業）の3つの専修分野と、「政策と地域づくり」という基盤となる1つの専修分野を考える。3つの産業では、従来はそれぞれ個別産業として、専門的立場で技術支援・専門学修が行われてきた。しかし、現在において、たとえば第1次産業の発展には、農作物商品の品質向上のため商品開発力が当然必要であるが、これに工業的技術力（第2次産業の力）を傾注することで効率化による人件費削減につながり、また商品にも付加価値が生じ、商品価値を高めることができる。商品販売においては、マーケット力、市場開拓力（第3次産業の力）は不可欠であり、戦略に基づく海外等環境の異なる地域での販売イノベーションは競争力拡大につながることになる。</p> <p>このように、地域産業においては、生産から商品化、そして販売に至る流れを一つの産業構造に置き換えて、そのイノベーション化を図りマネジメントすることのできる人材が望まれている。従って、そのような人材を育てることこそ地域で活躍できる人材育成となる。この考え方は、必ずしも4つの専修分野ごとに特化して秀でた専門家を養成するので</p>

はなく、それぞれの専修に対する知識と実践力をピークにもち、4 専修の分野に共通する基礎知識も広く裾野にもつという特徴あるものである。それぞれの専修分野の内容は、学問としての重なり合い（産業間融合領域）を意識しながら、連携し合うことによって、個々に成り立つことになる。

このような学校教育組織における教育課程を設置することで、地域の活性化のために必要な人材育成を行う教育基盤が確立されることになる。

卒業の認定に関する方針

（公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy）

（概要）学則に定める所定の単位を修得し、以下の能力を身に付けた学生に卒業の認定をして学士の学位を授与します。

1. 地域を理解し、社会人としてより良い人間関係を構築し、協調しあえるコミュニケーション能力を身に付けている。
2. 地域マネジメント学部の専門教育科目の学修により、幅広い基礎知識、専門力を身に付けている。
3. 論理的思考能力をみがき、柔軟性ある応用力をもって、地域社会に積極的に貢献することができる。
4. 安定的な判断力・認識力をもって改善する心を養い、向上心をもって物事に対処することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy）

（概要）講義を中心とした「理論」の学修と、演習や地域に出での実習による「実践」の往還と融合をとおして、地域マネジメント学を学びます。地域・企業での長期実習を含む地域マネジメント実習（3年次前期）などの豊富な実践科目を導入し、地方創生の中核的人材として主体的・実践的に活躍できる人材を養成します。カリキュラムは以下の理論科目（1.～3.）と実践科目（4.）からなる4本柱で組み立てられています。

1. 学部基本科目として、地域社会・地域産業の現状を学び、課題を解決するための方法論を学修する。
2. 「アグリ産業」「ものづくり産業」「商い産業」「政策と地域づくり」の4つの専修を設置し、それぞれの固有の教科内容や産業間の融合内容、さらに戦略的内容について学び、その適用例として地域の現状把握、地域の課題発見やその解決策等について学修する。
3. 経営実務科目として、簿記・会計やファイナンシャルプランなど、マネジメント力の基盤となる知識・技能を修得し、実際の活動に活かす学修をする。
4. 主体産業科目群等の理論科目と地域マネジメント実習等の実践科目の、いわゆる理論と実践の往還・融合で、効果的な学修をする。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy）

（概要）地域マネジメントには多様な才能が必要であるため、以下のような志を持つ学生を求めています。

1. 食料等の生産により、地域の豊かさを実現する「アグリ産業」分野に関心があり、将来この分野で活躍したいと考えている人
2. 地域の生産物を加工し価値を高める「ものづくり産業」分野に関心があり、将来この分野で活躍したいと考えている人
3. 地域の産物や情報、資源を活用して、新たな事業をコーディネートするなど「商い産業」分野に関心があり、将来この分野で活躍したいと考えている人

<p>4. 各種産業の発展に関わる「地域政策・情報・まちづくり」分野に関心があり、関係機関と連携して地域づくりを推進するなど、将来この分野で活躍したいと考えている人</p> <p>5. アグリ・ものづくり・商い産業の枠を超え、これらを融合した新たな事業分野で活躍したいと考えている人</p>

<p>学部等名 看護学部看護学科</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：http://www.sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure)</p> <p>(概要) 本学の建学理念「愛と奉仕」の精神を培うことによって人格を高め、人類社会に対する連帯の意識を養い、倫理観に富んだ人間愛を育み、保健・医療・福祉を総合的な視野で捉えられる看護専門職者を育成するための教育研究を行い、人々の健康と福祉の向上に寄与する。</p> <p>さらに、豊かな教養と人間愛を備え、生命の尊厳や基本的人権を擁護できる高い倫理観、科学的思考法と専門的知識・技術を体得し、社会的信頼を得るに足りる看護専門職者を育成するための教育研究を行い、もって保健・医療・福祉の向上に貢献することを使命とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy)</p> <p>(概要) 学力向上のため、入学前学習の指導・初年次教育・キャリア教育・専門教育・国家試験対策・就職支援までの一貫した系統的学習を終了し、学修成果が認められることにより学位(看護学)を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 幅広い教養を基盤とした豊かな人間性と倫理観を備え、コミュニケーション能力を十分に修得し、実践できること。 看護学に関する専門的知識・技術を修得し、あらゆる健康レベルや場における、科学的根拠に基づく的確な判断能力と問題解決能力を培い、これらを基盤とした看護実践能力を身に付けたと認められること。 医療の高度化・複雑化・多様化に対応し、科学的かつ最新、最善の看護を実践するため、専門性の深化や役割の広がりに応じ継続的に自己研鑽できると認められること。 チーム医療の推進や職種間との役割分担・連携の進展に対応し、看護の専門性と役割を認識し、職種間の協調性と調整能力を身につけたと認められること。 地域における保健・医療・福祉ニーズを見極め、地域住民の健康生活を支援できる能力を体得したと認められること。 <p>(卒業要件)</p> <p>本学部を卒業するためには、4年以上在学し、かつ「共通教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」の区分ごとに定められた単位数を修得し、全体で「卒業するために必要な総単位数」以上を修得していることが必要となる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy)</p> <p>(概要) 本学教育の基本理念である「愛と奉仕」の精神をもとに、山陽スタンダード科目としての「知的生き方概論」「人間学」等の教養教育の重視、教養教育と専門教育の有機的連携が確保できるよう、教育課程を編成する。また、学科アクティブラーニング(主体的能動的学習)の導入により、教育研究・社会活動・地域貢献の活性化を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育課程を「共通(全学・学部共通)教育科目」と「専門教育科目」に分け、専門教育科

目をさらに「専門基礎科目」と「専門科目」に区分した。学年進行に伴って段階的に身につけるべき能力に対応できるよう、課程編成の主要概念を人間、健康、社会、環境、看護とする。

2. 「共通教育科目」は、豊かな教養と人間愛を備え、科学的思考法を体得し、将来さまざまな看護場面に対応できるための基礎となる科目群を設定した。また初年次教育として、大学での学問に必要なスキルや、人間関係を確立するためのコミュニケーションなどを学ぶための科目を設ける。
3. 「専門基礎科目」は、看護学を支持する科目で、人間、健康、社会、環境に関する理解を深め、健康、疾病、生活に関する理解に基づいた判断能力、調整能力が発揮できるための基礎となる科目群を設定する。
4. 「専門科目」は看護学の知識・理論と技術を深めるもので、対象者の健康レベル、ライフサイクルに対応する看護に必要な知識・技術を修得するための科目群を設定する。特に、各看護学領域では、先ずそれぞれの看護学概論を学修した後に援助論・技術を学び、理論、知識、技術を統合するために臨地実習を行うよう構成する。
5. 授業科目は上記の科目に加え、養護教諭一種免許に必要な科目（選択）を合わせた科目で構成される。

(学修の評価のあり方)

学修の評価は、シラバスに記載されている【成績評価の方法・基準】（筆記試験、論文、実技、出席状況等）に基づいて科目担当教員が行う。成績の評価は、100点を満点、60点以上を合格として単位を認定する。

(2年次生から3年次生への進級要件)

3年次科目を履修登録するためには、2年次後期までの看護師教育課程の必修科目の単位を修得し、かつ累積GPA値1.00以上又は前年度GPA値1.00以上でなければならない。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：http://sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure/policy)

(概要) 看護学部は「愛と奉仕」の建学理念をもとに、豊かな教養と人間愛を備え、科学的思考法と専門的知識・技術を体得し、社会的に信頼される看護専門職者を育成することを教育目的とする。

この目的を実現するため、教育課程編成の主要概念を「人間」「健康」「社会」「環境」「看護」とし、共通教育科目と専門教育科目に大きく区分されたカリキュラムをもとに、あらゆる人に質の高い看護を提供できる看護専門職者の育成を目指す。

こうした観点に立ち、本学部では次に掲げるような人を望ましい学生像とし、積極的に受け入れたいと考えている。

1. 看護学に関する専門的知識・技術を学び、将来看護専門職（看護師、保健師、養護教諭）として活躍したいという意欲のある人
2. 人間を愛し思いやりと優しさをもって、あらゆる人々とコミュニケーションがとれる人
3. 社会状況の変化に対応し、専門職業人として生涯にわたり積極的に自己研鑽をしていける人
4. 保健・医療・福祉サービスの質的向上のために、地域社会や国際社会に貢献したいという強い意志をもつ人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：http://www.sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
総合人間学部	—	12人	7人	1人	0人	0人	20人
地域マネジメント学部	—	6人	4人	2人	0人	0人	12人
看護学部	—	9人	4人	5人	5人	1人	25人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長				学長・副学長以外の教員			計
1人				108人			109人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： http://www.sguc.ac.jp/staff					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
総合人間学部	60人	76人	126.7%	380人	305人	80.3%	10人	7人
地域マネジメント 学部	60人	41人	68.3%	120人	81人	67.5%	0人	0人
看護学部	80人	84人	100.5%	320人	317人	99.7%	0人	0人
合計	200人	201人	100.5%	820人	703人	%	10人	7人
(備考)								
b. 卒業生数、進学者数、就職者数								
学部等名	卒業生数		進学者数		就職者数 (自営業を含む。)		その他	
総合人間学部	63人 (100%)	1人 (1.6%)	44人 (69.8%)	18人 (28.6%)				
地域マネジメント 学部	0人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	0人 (0%)				
看護学部	76人 (100%)	4人 (5.3%)	66人 (86.8%)	6人 (7.9%)				
合計	139人 (100%)	5人 (3.6%)	110人 (79.1%)	24人 (17.3%)				
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)								

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
 作成要領に従い、授業概要のほか、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準等の各事項を記載したシラバスを作成している。
 作成したシラバスは、年度当初のオリエンテーションにて学生へ冊子として配布し、ホームページにも公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 シラバスの「成績評価の方法・基準」の項目に、当該授業における試験や課題等評価にあたっての方法・手段並びに基準を記載し、あらかじめ学生に周知した上で、その学生に周知した内容に則って単位の認定ならびに評価を行っている。
 また、各学科ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、方針に基づき修得単位数等の卒業要件の基準を設定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
総合人間学部	言語文化学科	124 単位	有・無	単位
	生活心理学科	124 単位	有・無	単位
地域マネジメント 学部	地域マネジメント 学科	124 単位	有・無	単位
看護学部	看護学科	133 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：http://www.sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
総合人間学部 地域マネジメント学部	500,000円	300,000円	350,000円	
看護学部	800,000円	300,000円	650,000円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 障がい学生支援のガイドラインを作成している。障がい学生の支援は、手や足などの機能的な障がいだけでなく、発達障がいや自閉症などの精神的・神経的な障がい、慢性の病気、目や耳の障がいによって普通に授業を受けることが難しい場合などに必要な支援を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターと学科アドバイザー教員等との緊密な連携により、早い段階から就職に対する意識を高め、計画的で機動的な就職支援を行っている。特に、就職決定時まで、学生と一対一の面談を重視した支援を行っている。 ・就職支援科目 学生の就活意欲と目標レベルをさらに高めることができるよう「社会人入門」や「インターンシップ」及び県内優良企業と連携した「PBLプログラム」などの就職支援科目の充実を図っている。 ・就職支援ガイダンス 「就職懇談会」や「就活入門塾」、「卒業生による業界研究会」の開催や看護師、保育士、栄養士等の専門職を対象にした「学内合同説明会」、「マナー講座」などの就職支援ガイダンスを計画的に開催している。 ・資格取得支援 「漢字検定」、「秘書検定」の学内受験や「ビジネス能力検定」などの資格取得の支援を実施している。 ・キャリアサポートシステム 求人票や企業情報等が検索できる独自のキャリアサポートシステムを構築している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 本学学生相談室は、室長ほか3名の相談員で心の健康に関する相談に応じている。室長を除く2名は、公認心理士・臨床心理士で木曜日を除く週4日相談を受けている。相談は、面接の他、電話やメールでの対応も可能で、他人に知られず気軽に相談できる体制もとっている。 また、学生が所属する教員（アドバイザーやクラス顧問）へのコンサルティングにも応じている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：http://www.sanyogakuen.net/disclosure/college/edu_disclosure